

紙芝居「いくさの少年期」出版計画



6. シンガポール陥落を祝う提灯行列（1942年2月18日）



24. 福井市街に焼夷弾が降りそそぐ（1945年7月19日）

印刷費用のカンパをお願いします 目標…65万円で300部つくりたい

▶奈良市在住の弁護士・田中幹夫さんが2015年に出版した自伝的小説『いくさの少年期 1941～1945』を紙芝居にしました。田中さんは小学4年から中学1年のときに太平洋戦争を体験。その内容が、紙芝居ならではの表現にぴったりはまって、少年の目からみた「戦争」のリアルな空気がつたわってきます。

▶原作を紙芝居にしたのは、作家・寮美千子と、画家・真野正美。作品はB4判で33画面、標準的な上演時間は25分～30分です。試作版の上演は好評。「むかし親から聞いた戦争体験はこうだった」「いまウクライナの子どもたちはどうしているのだろうか？」など、上演後には観客のあいだにさまざまな会話が生まれ、戦争の本質についてあらためて考えるきっかけになっています。

▶田中さんはことし90歳。自身の戦争体験を語れる最後の世代から、これからの日本をつくる世代への、たいせつな伝言です。

▶このプロジェクトの目的は、紙芝居「いくさの少年期」を印刷・出版して日本全国に広めることです。いただいたカンパを元手に300部を製作し、うち100部は公共図書館と、子どもの集まる施設に無償配布。200部は上演してくれる仲間を募り、希望者に頒布して広めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

原作・田中 幹夫……1933年福井県生まれ。福井空襲、福井地震を体験。2003年、障害者虐待の「サン・グループ事件」で画期的な勝訴判決をかちとる。日本子どもの虐待防止学会名誉会員。『いくさの少年期 1941～1945』（文芸社2015）は、子どもの目からみた戦争体験を、すべて実話にもとづいて構成した自伝的小説。

文・寮 美千子……1955年東京都生まれ。1986年に毎日童話新人賞、2005年に泉鏡花文学賞を受賞。1990年代、衛星放送ラジオSt.GIGAセント・ギガに600編以上の詩を提供。幼年童話から絵本・純文学・ノンフィクションまで幅広く執筆。2006年より奈良市在住。

絵・真野 正美……1958年大阪府生まれ。カーデザイナーとしてトヨタ自動車に勤務ののち、帯広市郊外に移住して画業に入る。六花亭が60年以上にわたって刊行している月刊児童詩誌『サイロ』の表紙画を2010年より担当。2017年、中札内美術村なかさつないに「真野正美作品館」が開館した。

紙芝居「いくさの少年期」あらすじ

福井市呉服町の洋服店の子・幹夫は、春山国民学校の4年生。1941年12月8日の朝、友達に「ラジオ聴いたか？」といわれます。**太平洋戦争**の開戦でした。わずか2ヶ月ほどで**シンガポール陥落**の朗報が入り、幹夫は**提灯行列**で日の丸の旗手を務め、誇らしい気持ちになりました。先生は「日本は、豊かになるぞ」といったのに、なぜか生活物資は**配給制**になり、**金属供出**まで。おじさんや先生にも**赤紙**がきて、次々と戦場へ。**防空演習**、**軍事教練**、**学徒動員**と、戦時体制が急激に強まっていきます。幹夫たちの家が**建物疎開**で引き倒された日の深夜、連合軍の**空襲**が……。

カンパ受付口座……ならまち通信社（ナラマチツウシンシャ）

▶ゆうちょ銀行 払込取扱票で 00930-3-144668

▶ゆうちょ銀行 ATMから 記号00930 番号144668

▶ほかの銀行から ゆうちょ銀行 ゼロキョウキョウ 〇九九店 当座 0144668

※お振込の際、振込依頼人名の頭に「イクサ」または「193」と入力してください。

※ご寄付の金額に、一口いくらという単位は設けていません。

このカンパはいわゆるクラウドファンディングではなく、ご協力いただいた方に、物質的・金銭的返礼のご用意や、税控除はありません。計画の進捗状況はホームページで随時お知らせします。 <https://narapress.jp/ikusa/>



紙芝居「いくさの少年期」出版計画 事務局……ならまち通信社 松永洋介

携帯 070-5024-9428 電話・FAX 0742-24-4800 メール info@narapress.jp

〒630-8315 奈良市中辻町1-1-1F（101）